

平成 26 年度入省予定
環境省総合職理工系

内定者の声



《はじめに》

本紙は環境省総合職理工系内定者（H26 年 4 月入省予定）が自主的に製作したものです。幅広い人材を求める環境省を皆様に知っていただくこと、環境省に興味を持っていただくことを目的に製作しました。

ここに示した内定者の経験が、皆様の進路選択の一助となれば幸いです。

平成 25 年 10 月

環境省総合職理工系内定者 一同

《本紙構成》

* 内定者基本データ一覧

* 官庁訪問の流れ

* 内定者個人ページ

〈項目〉

◆基本データ

（学科/専攻、試験区分、国家公務員試験合格年度、官庁訪問時期など）

◆就活のスケジュール

◆自分を表すエピソード/大学生活について

◆趣味、特技

◆志望動機

◆公務員試験/官庁訪問について

◆環境省を志望されるかたへのメッセージ

* 裏☆内定者の声

* 編集後記

《付記》

本紙内容に関する責任は、全て製作者である内定者にあります。また、各人の考え方、勉強法などはあくまで個人的な見解です。御理解の上お読み下さい。

本年度の内定者は旧国家公務員 I 種試験合格者と国家公務員総合職試験合格者が混在しております。試験区分の対応関係などを記しておきましたが、詳しくは人事院HPにてご確認ください。（人事院：<http://www.jinji.go.jp>）

以上のことを十分に御理解の上お読み下さい。

※ 説明会…霞ヶ関 OPEN ゼミ、人事院や大学主催の説明会、環境省主催の政策シミュレーションなど

内定者基本データ

《男女比》

男性 7名	女性 1名
-------	-------

《春夏比》

春採用 2名	夏採用 6名
--------	--------

《試験区分》*1

工学 6名	数理科学・物理 ・地球科学 2名
-------	---------------------

《学歴》

学部新卒 1名	修士中退 1名	修士新卒 4名	修士既卒 1名	博士新卒 1名
------------	------------	------------	------------	------------

《官庁訪問時の初回訪問日》

1日目 5名	2日目 2名	3日目 1名
--------	--------	--------

《OB訪問の有無》

あり 2名	なし 6名
-------	-------

《その他の進路》

公務員 1名	なし 7名
--------	-------

《ボランティア参加経験の有無》



《予備校の利用》



*1 旧国家公務員Ⅰ種試験の理工Ⅰを「工学」に、理工Ⅲを「数理学・物理・地球科学」としてカウントしています。詳しい情報は個人のページをご覧ください。

【これは、本年度の内定者に限った結果です。】

基本データ：S.S.さんの場合

【大学・学科/専修】

東京工業大学 生命理工学部生命工学科 生命情報コース
→東京大学新領域創成科学研究科 環境システム学専攻

【学年・性別・年齢】

既卒・男性・27歳

【試験区分】

理工IV（旧試験）で2回落ちて、工学（院卒程度）で受かりました。

【国家公務員試験合格年度】

25年度

【試験席次】

上位10%

【官庁訪問時期】

夏

【説明会参加回数】

5回くらい（但し、ほとんど学部するとき）

【併願した省庁（第一クール訪問順）】

環境省⇒内閣府⇒経済産業省

【就活のスケジュール】

時期	内容
	SHUKATSU: 1.0 I AM ALONE
2008年夏	留年に焦りながら、経営コンサルを中心にぶらぶらする
2008年10月	友人が水産庁に内定をもらい、自分も環境省に行けると勘違いする♪
2009年4月	一次試験で落ちる><
	SHUKATSU: 2.0 I CAN NOT ADVANCE
2010年4月	大学院で環境学を勉強し始める。一次試験に合格する♪
2010年6月	二次試験に落ちる><でも先輩が環境省に内々定する。
2011年6月	民間に内々定をもらう。
	SHUKATSU: 3.0 I CAN REDO
2012年10月	会社同期が財務省志望と聞き、自分も環境省に行けると勘違いする♪
2013年4月	会社と交渉して働きながら受験する。同期は顧客対応で受験できず><
2013年7月	内々定を頂く♪
2013年10月現在	頂いた内定が取り消しにならないか怯える毎日><

【私はこんな人です】

● 「Cool Head, Warm Heart」、「Sustainability」が好きな言葉です。読書やテレビ漬けの幼少期を過ごしてきたため世間知らずに育ったと思います。中学校時の生徒会長、学部時のベンチャー企業でのバイト、大学院時の COP 参加などのターニングポイントで少しずつ大人の階段を上れていけばなと思います。ちなみに動物に例えるとコアラと言われたことがあります(笑)また、人にプレゼントをあげるのが好きなのですが、プレゼント選びは一向に上手くならないのが悩みどころです。

【趣味・特技】

● スイーツを食べる/作る(最近ごぶさた)。イベント/セミナーの参加/運営。
海外に行く(約 10 カ国)。リサイクルショップで掘り出し物を見つけること。

【志望動機】

● 以下の質問に YES と答えられるからです。

「環境問題は存在すると思いますか」

「環境問題に取り組む必要性があると思いますか」

「環境問題にあなたが取り組む必要性があると思いますか」

「環境問題にあなたは生涯取り組みますか」

「環境問題の解決には、国際間の協力が必要だと思いますか」

衡平で持続可能な社会を構築するには以下の2つの問題に対処する必要があります。

1. 汚染された環境が不特定多数に悪影響をもたらす外部性の問題
2. 他者からの搾取を前提にしたエネルギー/資源の問題

そのために全てのステークホルダーに働きかけをできるのは環境省だけだと思います。

【公務員試験について】

<教養試験>

(一般知能)

英語：TOEIC 対策で鍛えたので馴らすくらいでした。

数的処理/判断推理：時間をかけて丁寧に解くことが点数の最大化につながると最後に気づきました笑

(一般知識)

無勉。社会人生活のおかげか時事が全問正解でした笑

<専門試験>

計算問題と知識問題をバランス良く解くことが大事。選択問題では全ての科目でどんな問題があるかを見ておき、リスクヘッジをしつつ期待値を最大化することが大事です。

記述試験では、衛生工学と信頼性工学を解きました。例年と同じ傾向だったので、難なく解きました。

<政策論文・政策課題討議>

国 I 時代に受けた政策論文は自信がありましたが、通常点でした。

政策課題討議は、学部時代のロジカルシンキング/グループディスカッションの訓練と大学院から続けている環境 NGO の活動でのディスカッション/ミーティング経験が活きました。資料が配られるグループディスカッション(経営コンサルなどの採用試験)に参加すると訓練になると思います。議論好きなので楽しかったです。

<人事院面接>

ほとんどの人が標準点なので、攻めの姿勢が大事かと思います。当たり前のことしか聞かれないので、個性を出すのが難しいかもしれません(求められてない?)。

<官庁訪問>

●全般の印象

環境省：待合室の雰囲気が良い。プロセスの透明性も他に比べてあると思う。

内閣府：待ち時間長い。事務系の事情を知る良い機会になった。他省庁から厳しい声も。

経産省：トーク力と論理力が大事。ノリ良くゲートキーパーの2人を超えてからが本番。

海上保安庁：人が面白く、海外案件も多い。制度作りではなくデータ提供の役割。

●印象に残ったやりとり

環境省：「社会とシンクロした時が一番 happy ♪」

内閣府：「全員が国家公務員になれば良いんだけどね」

経産省：「悪だくみをするのは良いけど、論理が破綻してるよ」

海上保安庁：「言えない話が一番面白い」

●失敗・苦労した点

環境省：サブ（政策の中身）がないと言われたこと

内閣府：興味のある業務内容を聞かせてもらえなかったこと。

経産省：お昼休みに次の1手を考えたいのに、やる気の無い志望者に捕まったこと。

海上保安庁：志望理由が弱かったこと。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

●イメージ通りだったところ

やっぱり忙しい。海外に行く人が多い。経産省と併願していた人が多い。

●イメージとは違ったところ

自然環境局に行くこともあること。地球温暖化対策税と除染業務のために、組織が変わってきていること。「多くの制約の中で 20 点の品質でも前進することに意味がある」という旨の発言に理想を掲げるだけではないと感じた。

<最後に一言！>

やり切る覚悟があれば多くのことは成功するような気がします。

ただやり切る覚悟をもつためには人によっては複数のプロセスを経る必要があります。

私の人生を遠回りとして受け取る方は多いかもしれませんが、一番の近道は遠回りでした。遠回りこそが私の最短の道でした。皆さんも自分の道を歩いてみてください。

<写真コーナー>



COP16の思い出

大学院時に COP(気候変動枠組条約締約国会議)に2回参加。人生のターニングポイント。とても遅いプロセスだが、それは多様なステークホルダーがいるから。意思決定のプロセスとは何かという問題を自分の所属組織も振り返りつつ考える良い経験となった。

COPに行きたい方は

[CYJ](#)または[CCWG](#)で検索！



南三陸ボランティアの思い出

COPに行き、現場を見ることが大切という認識が強まる。社会人最初の有休で震災1年後の南三陸を訪れる。大好きな Sustainability という言葉を環境の面だけでなく考えることの重要性を感じる。

南三陸でボランティアしたい方は [United Earth](#) で検索！



ITベンチャー(Beat Communication)での思い出

学部時に [ITベンチャー](#)でエコライターの仕事をした。環境配慮した行動・製品を調査し、文言を作成するというもので、環境問題に取り組む原点となった。また、環境問題にビジネスで取り組む難しさも感じた。アル・ゴアの「この年齢で生涯取り組むべき課題をようやく見つけた」という旨の発言に励まされ、22歳から環境の道を歩むことを決意する。

基本データ：D.K.さんの場合

【大学・学科/専修】

東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻
(修士は、同大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻)

【学年・性別・年齢】

博士課程3年・男性・27歳

【試験区分】

理工Ⅲ (旧試験)

【国家公務員試験合格年度】

平成23年度

【試験席次】

上位から25%以内

【官庁訪問時期】

夏

【説明会参加回数】

1回

【併願した省庁 (第一クール訪問順)】

環境省⇒国土地理院

【就活のスケジュール】

時期	内容
2011年3月 (M2)	研究職に就くことを漠然と考えていたが、震災を機に、公務員の重要性に気付き、心が動き始める。
2011年4月 (D1)	試験申し込み。とりあえず、1次の教養試験の勉強をしようと思い、過去問を買い少し勉強。
2011年6月	無事合格。だが、博士号は今後非常に有用になると考えたので、2年後に官庁訪問し、学位を取得した後に就職しようと思決意する。
2012年 (D2)	研究。就活は一切せず。
2013年4月 (D3)	面接の練習も兼ね、他省庁に官庁訪問。だが落ちる。でもいい勉強になったと思う。
2013年6~7月	夏の官庁訪問。何とか内々定を頂く。

【私はこんな人です】

●地球科学大好き

研究は、地球史、特に古生代末大量絶滅事件なるものを専門にしていました。研究の特性上、フィールドワークに行く事もあるせいか、歩く事が好きです。普段の研究では、石を

切り刻んだりする作業がかなり多いです。

●本を買う事が好き

もちろん読むのも好きです。むしろ、専門バカになってしまわないように、専門以外の本も積極的に読むようにしています。また、時間があれば、本屋を巡ったりします。高校生までは逆に全く本を読んでいませんでしたが。自宅の机には、読んでない本が山積みです。

【趣味・特技】

●走る事、読書、将棋。

陸上（400m）をやっていたので、無駄な体力には自信あり。跳躍系の種目もやっていました。最近練習時間がとれないので、長距離に移行しようかと考えています。本は、往復の電車でよく読みます。これがかなり息抜きになっています。将棋は、ネット観戦が主です。中学時代は将棋部でしたが、今は対人で指すことはほとんどありません。あまり強くはないです。最近ネット中継が増えてうれしい。

【志望動機】

●なぜ公務員？

元々は研究職を考えていましたが、震災を機に公務員の重要性に気付き、加えて、博士号を取って研究職にいくという人をたくさん作るだけでなく、もっと博士号を持っている人が様々な方面に出る必要があると考えたので。

●なぜ環境省？

地球科学を大学で学んでいたこともあり、地球環境の変化については非常に興味があった。大学院でのフィールドワークで中国に行った際、大気汚染のひどさを実際に体験し、これは対岸の火事では済まないと考え、行政が何とかしなければならぬと考えたので。

【公務員試験について】

<教養試験>

試験の申し込みをしてから 2 週間ほど過去問を解いて勉強しました。やはり、素直に過去問を買うのが手取り早いと思います。現行の試験がどうなのかは分かりませんが、時間が足りなくなる人が多い傾向にあると思うので、まずは問題慣れをすること。さらに、配点が高いのが数的処理の問題で、しかも時間がかかるはずなので、とにかく解いて慣れて、短時間で解けるようにすること。パズルの思考が得意な人には非常に有利だと思います。いわゆる知識を問う問題については、高校までの勉強が間違いなく役に立つと思います。自分の場合は、歴史（特に日本史）が元々非常に好きだったこともあり、特に勉強をしなくても済みました。普段から色々なジャンルの本を読んでいたのも、こういう時に役に立ったと思います。

<専門試験>

1次は無勉。実際に問題を解いた印象では、数学・物理・地球科学の場合は、普段使わない、専門とは違う分野について軽くおさらいしておく程度でも十分だと思います（ただし、学部で1度は勉強していることが必要条件）。2次については、同じ研究室で過去問を持っている人がいて、その人に過去問を頂いて勉強。

<政策論文・政策課題討議>

政策論文はありませんでしたが、小論文については、過去問があったので1問だけでもいいからきっちり書ききることを目標としました。さらに、非常に運良く、大学の同じ部屋の人に、小論文を非常に良く書ける人がいたので、その人にアドバイスをもらいました。

書ける人に聞くのが一番手っ取り早いかな？

グループ面接は、旧試験には無かったので、残念ながら分からないです。

<人事院面接>

特に対策はしませんでした。やっぱり他の人に見てもらった方が絶対にいいと思います。喋り慣れる、欠点を他の人に見てもらえるなど、メリットは色々あるはず。ぶっつけ本番はやめましょう（体験談）。

<官庁訪問>

●全般の印象

面接用に、政策などに関する対策をしておくのも必要かもしれませんが、普段から考えておく事の方が重要な気がします。短い期間で作ってきたことだと簡単にボロが出てしまうと思います。また、面接を重ねて行くうちに、何を話すべきかということが何となく分かってくると思うので、毎回復習しておくことも必要かと思います。

●印象に残ったやりとり

こちらとしては、当然環境省に志望する動機となった興味のある分野があって、それについてはあらかじめ勉強をしているのは当然だと思います。第1クールの最後の面接の際に、「2年おきに別の部署に異動になるけど、その時に自分が興味のある部署以外に行く可能性も非常に高いから、その時に後悔しないように、もっと他の所についてもしっかり見ておいたほうがいい」と言われました。自分の志望動機には書かなかった、他の分野についてもちゃんと考えておくべきだったと思いました。もっと広く興味や知見を広めるべきだ、というアドバイスでもあると思います。

●失敗・苦勞した点

人事院面接の部分にも書きましたが、ちゃんと練習しましょう。他の人にあらかじめ見てもらいましょう。内々定後に、人事の方と話したのですが、自分の場合は、とにかく言葉が詰まってしまうということがあったようでした（当然、自分では気付いていません）。や

はり自分の悪いところをあらかじめ指摘して頂けるという意味で、大学などで面接練習をしてくれる人を探して、何度も何度も練習しましょう（反省）。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

●イメージ通りだったところ

若手の方がアクティブに仕事をされている方が多い印象を受けました。省の規模が大きすぎないことによるいい点が出ているのかなと感じました。

●イメージとは違ったところ

省庁のなかでは新しい省とはいえ、やはり公務員なので、比較的似ている経歴の人が多くかと思っていました。ところが、色々な経歴の職員の方がいらっしゃること、また、内定者も様々な人がいるので、人の方も多様性が高いと感じました。

<最後に一言！>

官庁訪問は大変だと思いますが、職員の方々は、真剣にこちらの話を聞いて下さいますし、自分が成長できるまたとないチャンスだと思います。環境省に入りたいと本気で考えていれば、ちゃんと伝わると思います。また、色々な経歴の人がいるので、社会人だろうと博士過程の学生だろうと全く気にする必要はないと思います。

「官吏は、堅確なる復興精神喚起の先達とならんことを期すべし」と70年前にも言われていますが、公務員の仕事は、やはり国民のため、国を良くするためにあり、その先頭で動くことにあると思います。特に、国が大変な時こそ、公務員の果たすべき役割が増しますし、こんなにやりがいのある仕事は他にはない、と思います。

基本データ：T.N.の場合

【大学・学科/専修】

京都大学大学院 理学研究科物理学・宇宙物理学専攻

【学年・性別・年齢】

修士課程1年・男性・22歳

【試験区分】

数理科学・物理・地球科学（大卒程度）

【国家公務員試験合格年度】

平成25年度

【試験席次】

上位25%

【官庁訪問時期】

夏

【説明会参加回数】

なし

【併願した省庁（第一クール訪問順）】

環境省⇒原子力規制庁

【就活のスケジュール】

時期	内容
2012年12月	企業合同説明会に来ていた経済産業省の説明を聞いて国家公務員に興味を持つ。12月末から公務員試験の勉強を始める。研究を行う裏で、ひたすら公務員試験勉強（二次試験終了まで）。
2013年1月	環境省の内定者の方の話を聞いて環境省に興味を持つ。
6月初旬	内定者の方の話を一緒に聞いた方と人事院面接の練習。
6月中旬	大学院の中退を決意。
6月末	官庁訪問スタート、その間、他大学院の院試の願書を提出。

【私はこんな人です】

●物理を専攻

大学では理学部で物理を専攻していました。学部時代は「世の中の現象が式で表すことができるんだ！」という物理のスタンスに感動していました。大学院では超伝導の実験を行っていました。今年ノーベル物理学賞に輝いて話題になっているヒッグス機構とか、物理現象を説明する4つの力を統一的に説明できるかもしれない超ひも理論とかも勉強してみたいと思っています。

●しゃべり好き

とにかくしゃべることが好き。寂しがり屋なので、周りが新しい環境になっても誰かまわ

ず話してしまいます。官庁訪問の時も、面接の待機時間に他の受験生と話すのが楽しみのひとつでした。自分とは異なるバックグラウンドを持った人の話を聞きたい！といつも思っています。

【趣味・特技】

●パンダ

きっかけは等身大の動物が登場するアニメ・マンガ。さらに、今年の3月に和歌山のアドベンチャーワールドに遊びに行ってからパンダの魅力に取りつかれました。官庁訪問最終日と最終面接の日の午前は上野動物園へ行って。。。

官庁訪問の期間、慣れない東京でのストレスを解消するため、パンダの写真集を2冊、パンダが登場するマンガを1冊購入してなんとか乗り切りました。現在、所有しているパンダ関連の書籍は10冊程度。今年、日本で飼育されているすべてパンダたちに会ったことが密かな自慢です。もちろん、上野動物園の年間パスを持っています。

●クラシック音楽

小学生のころから高校卒業までピアノを習っていました。自分と誕生日が同じであるショパンが大好きで、バラード1番が特に好きです。でも、ピアノ独奏曲以外もiPodにたくさん入れています。大学入試の受験勉強の時はシベリウスのヴァイオリン協奏曲を死ぬほど聴いていました。クラシックについて語れる友達を切実に探しています。

●テニス・バドミントン

中・高は硬式テニスをしていましたが、大学ではスポーツはしませんでした（運動しないだけで太る・・・）。後悔。大学院の1年間は週一でバドミントンしていました。とりあえず最低限、動ける体力をつけないといけないと思っています。

【志望動機】

国家公務員を目指そうと思ったのは、大学時代の外国人の学生と企業の方に関わるサークル活動がきっかけでした。海外の意識の高い学生と話す中で、自分の興味の対象がマクロな問題であることに気付きました。また、私は地球温暖化や再生可能エネルギーなどに興味を持っていました。政府の一機関だけでは解決できないような問題を、その解決にあたって企業や国家間の協力が必要な場面で自分の経験を活かしたいと思い、環境省を志望しました。理系の考え方や知識を活かせる機会が多いのも動機のひとつです。

【公務員試験について】

周囲に公務員試験を受ける友人がいなかったため、あまり上手な勉強方法ではなかったと思います。

<教養試験>

公務員試験の勉強時間のほとんどを教養試験につき込みました。今考えると点数配分が専

門に比べて高くないので、もっと他の試験や官庁訪問対策に時間を割けばよかったと思います。なぜか、文系教科をしっかりとやらねばという信念があって、文系の友人に社会科学などを教わっていました。また、逆に数的処理の問題は理系だから解けるだろう、とタカをくくっていましたが本番で壊滅的でした。

<専門試験>

専門はほとんど勉強せずに受けました。院試とそこまで難易度が変わらなかったのもそこまで心配はしていませんでした。二次試験の専門ではヤマをはった問題とほぼ同じ問題が出題されたので、かなりリラックスして解くことができました。

<政策論文・政策課題討議>

大卒程度の試験を受けたので、政策論文を受けました。対策としては、過去 5 年の問題を解いて、友人に添削してもらっていました。理系科目とは異なり、解答がただ一つに定まらない問題は自分以外の誰かに添削してもらうのが一番だと思います。

<人事院面接>

対策として友人と練習を一度行いましたが、気恥ずかしくなかなかうまく話せなかったのを練習後に悔み、家でひとりで練習をしていました。本番は想像以上にフランクで緊張はあまりしませんでした。

<官庁訪問>

●全般の印象

決して楽な二週間ではありませんでしたが、とても得たものは大きかったと思います。面接から学ぶことは多くありました。白書を読んでいただけでは分からない話を聞くことができたのは貴重な機会でした。また、面接の待機時間も他の受験生と楽しく会話したのはいい思い出です。

●印象に残ったやりとり

国際的な取り決めに興味があったので、国際環境協力を担当していらっしゃる方との面接をよく覚えています。自分の考えを述べた際に、それはあくまで理想論であって国際交渉はそんなに甘くない、と指摘を受けたのは特に印象的でした。

●失敗・苦勞した点

もう少し早くから白書を読んでおけばよかった、と何度も後悔しました。具体的な政策の話になったときに、詳しくその政策を知らないと自分の意見を持っていないことを悔しく思いました。

しっかりと環境省がどのようなことを行っているのか調べて、自分なりの意見をあらかじめ持つておくのが大切だと思います。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

●イメージ通りだったところ

面接がフランクであるところはイメージ通りでした。いざ面接が始まると緊張もすることなく自分の意見を述べられるような環境だったと思います。

●イメージとは違ったところ

職員の方々はインテリだと勝手にイメージしましたがそんなことはなく、いろいろなキャラクターの職員がいらっしまったのは印象的でした。面接のたびにどのような方なんだろう、とドキドキしていました。

<最後に一言！>

就職活動は人生の大きな分かれ道に立っている状況です。今まで自分が学んできたこと、感じたことを振り返ってどのような方向の道をこれから歩みたいのか、しっかり考えることがとても大切だと思います。私の場合はしっかりと学部のところからそれをしなかった結果、院を中退することになりました。今でこそ後悔はしていませんが、自分が納得できる道を決定するのは簡単なことではないと思い知りました。

就職活動に限らず、進路を決める際に最も大切なことは、志望している組織の理念が自分の信念と同じ方向を向いているかどうかだと思います。全く同じであるのは稀だと思いますが、その理念に賛同できない部分があれば、そこでの活動が自分にとって辛いものになってしまうかもしれません。モチベーションを持ち続けて活動できるのが一番幸せな生き方だと思います。これを読んで、みなさんが自分の満足できる選択をするヒントを得られれば幸いです。

基本データ：A.K.さんの場合

【大学・学科/専修】

京都大学大学院 工学研究科 都市社会工学専攻

【学年・性別・年齢】

修士課程 2年・男・23歳

【試験区分】

工学（院卒程度）

【国家公務員試験合格年度】

平成 24 年度

【試験席次】

中の下

【官庁訪問時期】

夏

【説明会参加回数】

1 回（合同説明会？のみ）

【併願した省庁（第一クール訪問順）】

国土交通省⇒防衛省⇒環境省

【就活のスケジュール】

時期	内容
2012 年 4 月	本格的に公務員を志望し始め、試験勉強を開始。
2012 年 5 月	2 次試験まで時間がないので、この時期は毎日研究室にこもって勉強していた。
2012 年 6 月	無事、筆記試験に最終合格。
2012 年 7~11 月	インターン、留学、旅行など私生活を充実させる。 就活は一旦お休み。
2012 年 12 月 ~2013 年 3 月	結局民間企業と迷ったまま、就活が本格的にスタート。各種説明会に奔走する。
2013 年 4~5 月	民間企業の面接を通して、自分が本当に熱意を持って働けるのは公務員だと気付く。春の官庁訪問は経済産業省を訪れるも不採用。
2013 年 6~7 月	夏の官庁訪問。いろいろな省庁のお話を聞く中で成長を感じた。最終的に環境省から内々定を頂き、長かった就活も無事終了。

【私はこんな人です】

- 都市社会工学を専攻

この冊子を読んでもくださる方には馴染みがないかもしれませんが、大学では都市社会工

学専攻に所属し、都市計画学・交通工学について学んでいます。詳しいことは書きませんが（詳しく書けないだけというのは内緒です笑）、環境問題というのは本当に多岐に渡るため、大学の専攻は（採用に）関係ないんだということが少しでも伝われば幸いです。

- 野球一筋

小学校4年生から現在まで、約13年間ずっと野球を続けています。野球という競技を通じて、チームプレイの精神を学び、集団の中で求められていることを考えて行動できるようになったと思います。

【趣味・特技】

- 球技全般

基本的に球技は好きで、（上手い下手に関わらず）よくやります。最近ゴルフを始めたのですが、まだまだOBの連発です笑。

- 旅行

特に自然の風景を見るのが好きなので、地方によく旅行に行きます。自然風景を見ると気持ちがりフレッシュされるだけでなく、「この美しい自然環境を守らねば」と強く思うようになります。

【志望動機】

- 環境に興味を持ったきっかけ

徳島県という田舎に生まれ、幼少期を自然に囲まれて過ごした経験から、環境というものに関して漠然と興味がありました。また、近くの自然公園が開発されて大型ショッピングモールになったのを目の当たりにし、「人間の暮らしの豊かさのためには自然を破壊してもいいのか？」という「自然との共存」について考えるようになったのが、環境問題に興味を持ち始めたきっかけです。

- なぜ環境省か？

上記のような興味・関心から、大学入学時は環境について学べる学科を選択しました（現在は当時の自分の考えなどもあり交通工学を学んでいます）。そこでの講義を通して、原発問題や新エネルギー問題、ポスト京都議定書など国をあげて解決していくべき問題がたくさんあると感じました。もともと公務員である父親の影響で国や地方のために働くことに興味があったので、環境問題に広く携わり、これらの問題の解決に少しでも貢献したいとの思いから環境省を志望するようになりました。

【公務員試験について】

全く参考にならなさそうですが、自分の体験談について書かせて頂きます。

<教養試験>

数的推理の問題数が多かったため、「数的推理の問題を落とさない」ことを目標にひたすら問題集を解いていました。国語と英語の長文はじっくり読めばなんとかなると思うので、理系科目（数的推理含む）をいかに速く正確に解けるかがポイントだと思います。

<専門試験>

大学院生の方は基本的に院試勉強の復習でなんとかなると思います。私も院試の時のノートを見直しつつ、院試や公務員試験の過去問を解いて確認するという方法をとっていました。

<政策論文・政策課題討議>

私は大卒区分で受けたので政策論文でしたが、対策は一切しておりません笑。

<人事院面接>

自分に関する基本的なことが尋ねられると思います。「どのようなことを経験し（過去）、自分はどのような人間で（現在）、なぜ公務員か？（未来）」この3つに答えられれば大丈夫です。

<官庁訪問>

●全般の印象

自己PR、志望動機、環境省で何がしたいか（政策提案）が主な質問で、それに対して突っ込まれたり、たまに突飛な質問が来たりという感じでした。物事を自分の頭で考え、自分の口で伝えることと、各面接で学んだことを吸収し成長していくことの2つが特に大事だと感じました。

●印象に残ったやりとり

自分の業務について、すごく楽しそうに話してくれた職員さんが多かったことが印象に残っています。

●失敗・苦労した点

新聞で見ただけの知識をそのまま喋ると、そのことについて突っ込まれて何も言えなくなりました。発言の裏に自分の考えをちゃんと持っていないということになるので注意してください笑。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

●イメージ通りだったところ

若い省庁であるだけに、皆さんチャレンジングな考え方を持っているなあという印象を受

けました。

●イメージとは違ったところ

ただ環境問題を叫んでいるだけではなく、多様な社会的要素を考慮した上で判断する柔軟性を持ち合わせているというイメージを、官庁訪問を通して受けました（当然、環境に対する芯の強さも見受けられました）。

<最後に一言！>

官庁訪問をされる方は是非いろんな省庁をまわってほしいと思います。私自身、大学の専攻でいくと国土交通省が1番身近であり、当初は国土交通省を第1志望に官庁訪問を行っていましたが、面接を繰り返していく中で「環境省のほうが自分に合っているのではないか」と感じるようになり、最終的に満足いく結果で官庁訪問を終えることができました。自分の専攻にとらわれず、興味・関心のある分野にはどんどん手を出して行ってほしいと思います。思いもしないいい出会いがあるかもしれませんよ（私自身、来年から環境省で働くのが未だに信じられない部分もあります笑）。

基本データ：S.M.さんの場合

【大学・学科/専修】

早稲田大学大学院 創造理工学研究科 地球・環境資源工学専攻

【学年・性別・年齢】

修士課程 2年・男・25歳

【試験区分】

理工 I (旧試験)

【国家公務員試験合格年度】

平成 23 年度

【試験席次】

中の下ぐらい

【官庁訪問時期】

春

【説明会参加回数】

20 回ぐらい

【併願した省庁（第一クール訪問順）】

環境省⇒経済産業省

【就活のスケジュール】

時期	内容
2010年4月	留年が決まり（必修の1単位のためにorz）、1年間のモラトリアム生活が始まる。 「進路の選択肢を増やすために公務員試験を受けてみれば」という先輩のアドバイスに従い、運転免許・TOEICと平行して準備を始める。
2010年10月	勉強スタート。説明会もちょくちょく参加し、情報収集を行う。
2011年4月	モラトリアム終了。1次試験。専門が崩壊し、落ち込む。
2011年5月	1次試験合格発表。まさかの通過。慌てて2次試験の対策を行う。 2次試験。見事ヤマがあたる。
2011年6月	最終合格。しかし、理系として大学院は卒業しておきたいと考えたため、官庁訪問は行わず大学院進学を決意。
2012年8月	環境省のサマートライアルに応募。が、落ちる。
2012年12月	民間就活がスタート。自己分析や面接対策を行ったことが後の官庁訪問に活かすことに。
2013年4月	春官庁訪問。内々定を頂く。

【私はこんな人です】

● 研究

ため池の底にある土壌を分析し、過去の越境大気汚染を調べる研究を行っています。研究試料は必ず自分で取りに行くため、山登りやボート漕ぎのスキルが年々上がっています。

● テニス

理工の体育会に所属。正直学部時代は勉強しないでテニスばかりしていました。熱さを前面に出して部をまとめていたので「肌が黒い松岡修造」と呼ばれたこともあります。

● アルバイト

某ハンバーカーチェーン店で 8 年間勤務。ここで接客の難しさ、後輩の育成の仕方、ドナ○ドの偉大さについて学びました。

【趣味・特技】

● 外に出て、体を動かすこと（スポーツ全般、フィールドワーク、旅行）

今の研究室もフィールドワークがあるという理由で選びました。去年は折りたたみ自転車で五街道走破しました。

● 時にインドア（読書、ゲーム、飲み会）

【志望動機】

● 環境とは？～

高校生の頃から環境問題について漠然と関心があり、大学で深く学ぼうと思い環境工学を専攻しました。それはその頃の私が環境について「クリーン」「時代の最先端」といったプラスのイメージを持っていたからです。しかし、大学で学び、最終処分場・被災地・絶滅危惧動物の保護活動といった様々な現場を訪れたことで考え方が変わりました。本当の環境問題は「汚い」「くさい」「扱いを一步間違えれば人の命に関わる」といったネガティブな側面があるという当たり前の事実を認識したのです。しかし同時にこれらの問題を解決する重要性も実感することが出来たため、環境問題解決に携わっていきたく考えるようになりました。

● なぜ環境省か

現在越境大気汚染の研究を行っているため、多くの環境問題が地域問題から国際問題に変化していることを実感していました。そこでこれらの問題を根本から解決するためには国際的なルール作りが必要であると考え、この分野に対して唯一行政として携わってほしい環境省を志望しました。

● + α

・ 幼い頃海外で生活していたため、日本人として日本のために役に立ちたいといった想いが昔からあったことも国家公務員を目指した理由の一つになっていると思います。

・ 本当に環境省でいいのか？という自分への答えを出すために説明会などを通じて官庁

訪問前に約 50 人の環境省職員の方と会い、お話を聞きました（徹底して行動しないと気がすまない性格なので）。その結果、「この職場は自分に合っている」「環境省で働きたい」と心の底から思えるようになった事が決め手になりました。

【公務員試験について】

基本的に「公務員試験受かる勉強法落ちる勉強法」を参考にして対策を行いました。

<教養試験>

過去問、スーパー過去問ゼミなどを繰り返し解きました。ただ教養は範囲が広いので、わかりにくい場所はウィキペディアや「マンガ日本の歴史」などで概要をつかんでから理解するようにしました。

<専門試験>

過去問を繰り返し。工学の基礎は公務員予備校のビデオ講座を受講しました。わからない場所は教科書を読むだけでなく、先輩や友人に聞くことで理解を深めました。

<政策論文・政策課題討議>

（I 種試験のため総合記述）市販の公務員論文の本にある見本をひたすら読みました。

<人事院面接>

大学の就職課で模擬面接を数回行う。内容よりも元気にハキハキ喋れるように意識しました。

<官庁訪問>

●全般の印象

- ・待機時間が意外と少なかったです。そのため民間の就活と平行して行う事ができました。
- ・4年の時に筆記を合格していたことで、官庁訪問対策に費やす時間が人より多く確保できたため（説明会、白書など）気持ちに余裕を持って望めたと思います。
- ・自分を売り込む、という意識よりは「勉強させてもらう」「職員の方と仲良くなる」と考えながら面接に望んだため、肩の力を抜いて話せたかと思っています。

●印象に残ったやりとり

第二クールに「君の志望動機に一貫性がないように聞こえる」とアドバイスを頂いたことです。慌てて土日に教授、友人、家族に志望動機を聞いてもらい、意見を聞きました。その結果、頭の中が整理され、志望動機のブラッシュアップを官庁訪問中に行えました。

●失敗・苦勞した点

「お辞儀が傾いている。次の面接では気をつけるように」とアドバイスをいただき望んだ

最終面接。退出する際、緊張してまた斜めにお辞儀をしまい面接官全員に大爆笑されました。緊張すると意外と基礎的な事が出来なくなるようです。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

●イメージ通りだったところ

熱く、ポジティブな先輩方が多いことです。説明会や内定後の懇親会でも、今の仕事に関して熱く語っていただき、「仕事が楽しい」といった声が当たり前のように聞こえる雰囲気があることが環境省の強みだと思います。

●イメージとは違ったところ

・思っていた以上に職員の多様性に富んでいました。ただそれは様々な角度から環境について考えなければいけない環境省において重要な要素であるのではないかと考えています。

<最後に一言！>

就職活動において自分の興味のある分野・業界にこだわらず、様々な人の話を聞いてみてください。私も最初から環境省一本ではなく（そもそもクラブ活動に力入れすぎて留年してなければ試験も受けていません）、他省庁や民間の会社と迷ったからこそ今の自分があると思っています。悩むこと、回り道をすることが実は進路選択において一番の近道になると思います。もし悩んだ末の選択肢に環境省が入っている方がいるならば、ぜひ一緒に働きましょう！お待ちしております。

基本データ：H.T.さんの場合

【大学・学科/専修】

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻

【学年・性別・年齢】

修士課程 2年・女性・23歳

【試験区分】

工学（院卒程度）

【国家公務員試験合格年度】

平成 25 年度

【試験席次】

上位 3 割

【官庁訪問時期】

夏

【説明会参加回数】

1 回

【併願した省庁（第一クール訪問順）】

経済産業省⇒環境省⇒国土交通省

【就活のスケジュール】

時期	内容
2012 年 11~12 月	取り敢えず合同説明会を回ってみる。
2013 年 1~3 月	民間企業の説明会に参加しつつどんな仕事に向いているか考える。 公務員にも惹かれたが内々定が遅いため迷っていた。
4 月	受けずに後悔したくないと思い、公務員試験に申し込む。 一次試験を受ける。
5 月	一次試験に合格する。 専門試験の勉強に取り組む。 一次試験合格者対象の合同説明会に参加し、官庁訪問でどの省庁に行くか考える。 二次試験を受ける。
6 月	人物試験・政策課題討議試験を受ける。 何とか無事に合格する。 官庁訪問に参加する。
7 月	他省庁と迷ったが最終的に環境省に決め、内々定を頂く。

【私はこんな人です】

●研究

環境・エネルギー技術に関わるシミュレーションをしています。研究室では一日中パソコンと向き合う毎日です。

●サークル

最近では参加できていませんが、高校から合唱団に入っています。自分一人だけでなく、仲間と共に1つの音楽を作り上げていくことが魅力だと思います。可能であれば社会人になってからも続けていきたいです。

【趣味・特技】

●小説を読むことです。休日は時々近所の図書館に行っています。様々なジャンルを読みますが、最近ではミステリーを読むことが多いです。

●小さい頃からジグソーパズルが好きです。今は一人暮らしでスペースがないので、実家に帰った時によく組み立てます。

【志望動機】

●元々環境・エネルギー分野に関心があり、関連する学科に進学しました。そこで環境省職員の方の環境政策に関する講義を受け、環境政策や国際交渉といった環境省の業務に興味を持ちました。その後大学で環境に関わる研究を行ない、環境技術を社会に普及していくためには制度作りや規制緩和といった行政面での支援が重要であり、取り組んでみたいと思うようになりました。こうしたことから、日本の環境問題全般に携わることができる環境省を志望しました。

【公務員試験について】

<教養試験>

前年度の過去問を一通り解いてみました。

<専門試験>

流体力学と熱力学で受験しました。授業で学んだことがあったため、参考書を読みながら復習しました。応用問題を解けるようにするというより基本を押さえておけば良いのではないかと思います。

<政策論文・政策課題討議>

政策課題討議試験では与えられた資料を読んで意見を述べたり質問し合ったりしました。私のグループは全員工学での受験者だったこともあり専門知識を持っている人がいませんでしたが、自分たちなりに意見交換できたと思います。

前年から始まったため様子が分からず、特に対策はしていません。

<人事院面接>

事前にした面接カードにそって質問されました。あまり答えにくい質問はなかったと思います。

<官庁訪問>

●全般の印象

最初は不安だったのですが、様々な業務をされている職員の方々とお話しすることができて非常に興味深く、一緒に働きたいという思いが強くなりました。

●印象に残ったやりとり

政策に関わる利害調整といった実際の社会を相手にする難しさについて伺う機会が多く、科学的な見方だけでなく多様な立場を考慮しなければならないのだと分かりました。

●失敗・苦労した点

1 クール目は緊張してしまい思うように受け答えができませんでした。その後何度も面接を繰り返すうちに少しずつ慣れてはきましたが、準備していない質問をされた時には焦ってしまい上手く返せないことがありました。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

●イメージ通りだったところ

どうしたら環境を良くできるか真剣に考えている人が多いと思いました。官庁訪問の中では、よく知らない分野についてもお話を伺うことができ勉強になりました。

●イメージとは違ったところ

親身になってくれる方ばかりで、他の省庁と迷っていた時にいろいろと相談に乗って頂きました。また、新しく小規模な組織であるためか、立場に関係なく話しやすい雰囲気での風通しの良さを感じました。

<最後に一言！>

国家公務員試験や官庁訪問は難しいというイメージがありましたが、様々な人とお話しすることができて非常に有意義な経験になったと思います。少しでも興味のある人は是非挑戦してみてください。

基本データ：J. T. さんの場合

【大学・学科/専修】

東北大学大学院 環境科学研究科 環境科学専攻

【学年・性別・年齢】

修士課程 2年・男性・24歳

【試験区分】

工学(大卒程度)

【国家公務員試験合格年度】

平成24年度

【試験席次】

上位25 %くらい

【官庁訪問時期】

春

【説明会参加回数】

2回

【併願した省庁（第一クール訪問順）】

経済産業省 ⇒ 環境省

【就活のスケジュール】

時期	内容
学部 3 年秋	地元の友人が公務員になり、公務員という仕事を意識しだす。なんとなく試験勉強を始める。
学部 4 年 6 月	震災を経ての一度目の受験。一次は通過するも二次で落ちる。
修士 1 年 6 月	二度目の受験。合格するも、国際学会と日程がかぶる。せっかく大学院まで行かせてもらったので、きちんと卒業したいと思い学会を優先する。
修士 1 年 12 月	民間企業の就職活動で説明会などに参加する。環境省が第一志望だったが、決めつけずに色々な分野の話を聞いてみようと思う。色々な立場の方の色々な話が聞け、思ったより楽しいなー、と他人事のように思う。
修士 1 年 1~3 月	ES 作成や説明会、テストセンター対策などに追われる。
修士 2 年 4 月	官庁訪問と民間企業の面接を並行して行う。環境省から内々定をいただき、就職活動を終える。

【私はこんな人です】

●マイペース

B型です。大体B型だとバレます。血液型の話になると、存在感をできるだけ消すか、黙秘権を行使します。それが身を守る最良の手段だと思っています。

●感情があまり表情に出ない

表情筋が絶滅しかけています。緊張していてもあまり変わらないという利点がある一方で、めっちゃめっちゃ具合が悪くても心配してもらえないという欠点があります。

【趣味・特技】

●読書・バドミントン・バスケットボール・スキー

同じ本を何度も読む派です。バドミントンは公園ではなく体育館でやる方のやつです。ガチの方です。

【志望動機】

私は北海道の札幌出身で、実家が山の麓にあり、小学生の頃はよく家からスキー靴を履いてスキー場に行っていました（徒歩5分）。地球温暖化が騒がれ始めたとき、冬に雪が降らなくなるのは嫌だな、と思ったのを覚えています。その頃から環境問題に興味を持ちました。

環境に関わる仕事がしたいと思い始めたのは大学に入ってからでした。私は工学部出身で、工学部で行われる環境問題の講義は技術的な話が主でした。しかし、環境技術は目覚ましく進歩しているにもかかわらず、それが問題解決につながっていないような気がしていました。環境問題の解決のためには、一部分の改善、改良だけではなく、全体として機能する仕組みが重要だと感じました。難しめな言葉を使えば、部分最適ではなく全体最適が重要だと思いました。

私は、色々な分野や主体の努力を問題解決につなげる仕事がしたいと思い、環境省を志望しました。

【公務員試験について】

<教養試験>

過去問を中心に勉強しました。一般知識に関しては、高校の参考書などを使って知識を補いましたが、範囲が広いので、あまりこだわり過ぎない方が良いでしょう。一般知能は、問題集を買って形式に慣れるようにしました。

<専門試験>

人事院から過去問を開示してもらい、勉強していました。記述式の問題には解答がないので、教科書などを見て自分で調べました。

<政策論文>

小論文の本を買い、小論文の基本的な書き方を押さえた後、興味のある分野や出題されそうな分野について、実際に文章を書く練習をしました。

<人事院面接>

特に対策はしておらず、ほとんどぶっつけ本番でした。なぜ地方公務員ではなく国家公務員なのかについては考えておいた方が良いでしょう。

<官庁訪問>

官庁訪問中は高校時代の友人の部屋に泊めてもらいました。ものすごく汚い部屋で、ほんとに足の踏み場のない部屋ってあるんだなと思いましたが、それでも、緊張の連続である官庁訪問期間中に、気兼ねなく話せる相手がいたことはとても大きかったと思います。夏と違い、春は官庁訪問用のホテルがないので、宿泊先は考えておいた方が良いでしょう。

● 一日目（4月3日 水曜日） 拘束時間：9:30～14:50 くらい 面接：6回

散々な出来。志望理由が抽象的すぎることにこのとき気付く。面接の待ち時間に白書を調べ、少しでも具体的にしようと試みる。5回目の面接で、春の官庁訪問がダメで夏もう一度受ける気があるならこうした方が良いでしょう、というアドバイスもらう（1回目）。

帰りに、もうここに来ることはないだろうな、と思い合同庁舎を見上げる。夜に、明日も来てほしいというメールが届き、わけわかんねー、と思う。

● 二日目（4月5日 金曜日） 拘束時間：9:30～14:30 くらい 面接：4回

この日 1 回目の面接で、春の官庁訪問がダメで夏もう一度受ける気があるならこうした方が良いでしょう、というアドバイスもらう（2回目）。初日より志望動機が明確になったが、具体的にやってみたい政策については上手く答えられず。環境省での面接を終えた後、夕方に民間企業の面接を受ける。

まあダメだろうな、と思いながらお蕎麦の食券を買っている時に電話がくる。

● 二日目と三日目の間（4月6,7日 土曜日、日曜日）

土曜日に民間企業の面接を受け、それ以外の時間は白書を読み、やってみたい政策をできるだけ具体的に話せるように準備をする。現状の問題点→自分なりの原因分析→自分なりの解決策→そのために環境省がすべきこと、を意識して準備をする。

● 三日目（4月8日 月曜日） 拘束時間：12:30～16:00 くらい 面接：3回

春の官庁訪問の正念場。土日に準備した内容を初めて話す。なんとなく納得していただ

けたような気がする。夜に、明日も来てくださいという連絡が来る。さらに、春の官庁訪問がダメで夏もう一度受ける気があるならこうした方が良い、というアドバイス（2 度目）をしていただいた方から、この一週間のあなたの吸収力・適応力には驚いています、というメールが届く。上司に怒られたばかりの友人に自慢し、疎まれる。

● 四日目（4月9日 火曜日） 拘束時間：13:30～15:00 くらい 面接：1回

最終日。今回の官庁訪問の集大成。面接は和やかな雰囲気です。少し安心する。と思いきや予想外の質問をされる。昼過ぎに官庁訪問の日程がすべて終わり開放感に浸るが、なんだかんだで、明け方まで友人のプレゼンの資料作りを手伝わされる。

官庁訪問を通して、自分の準備不足を痛感しました。ある面接官の方に、面接はお見合いだから自分をよく見せようとしなければいけない、と言われました。私は、きちんと相手のことを知り、自分のことをわかってもらうための努力を怠っていたと思います。それでも、様々なアドバイスをくれた方、面接時間のほとんどを業務説明に充ててくださった方など、多くの方に相互理解のために歩み寄っていただいた気がします。官庁訪問を通して、環境省のことを以前より知ることができ、以前よりもここで働きたいと思うようになりました。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

● イメージ通りだったところ

冷静なだけでなく温かい人が多い気がする。WARM HEART, COOL HEAD.

● イメージとは違ったところ

思っていた以上に個性豊かで多様性がある。

<最後に一言！>

環境省には本当に色々な人がいるので、説明会などで実際にあっていただけると多様性という言葉を実感できるのではないかと思います。あと、英語力は面接で結構聞かれたので、勉強して、なおかつそれを証明できるもの（TOEIC のスコアなど）があるといいと思います。

基本データ：H.K さんの場合

【大学・学科/専修】

早稲田大学 創造理工学部 環境資源工学科

【学年・性別・年齢】

学部 4 年、男性、21 歳

【試験区分】

工学（大卒程度）

【国家公務員試験合格年度】

平成 25 年度

【試験席次】

上位 20%程度

【官庁訪問時期】

夏

【説明会参加回数】

5 回ほど

【併願した省庁（第一クール訪問順）】

環境省⇒経済産業省

【就活のスケジュール】

時期	内容
2012 年 12 月	サークル等の活動に区切りがつく。自分への誕生日プレゼントとして 1 次試験用の参考書一式を一括購入。さみしく、むなしい。
2013 年 2 月	大学院に行く予定だが、なんとなく勉強を始める。
2013 年 4 月	院進学ではなく、環境省を第一志望に据える決意をする。 1 次試験。センター試験で培った運と勘が冴えわたる。
2013 年 5 月	自己採点結果、2 次に進めると確信したので慌てて参考書を探し、ひたすら勉強する。そのまま 2 次の筆記試験と、人物試験。
2013 年 6 月	最終合格を果たし、親戚一同に試験を受けていたことを含めて初めて報告。そのまま夏の官庁訪問が始まる。
2013 年 7 月	環境省に内々定をいただく。

【私はこんな人です】

● イベント好き

大学の講義を通じて学び取ることよりも、様々なサークルや団体に所属し、イベント運営などを行うことを重視していました。事実、学園祭運営や音楽イベントの主催など延べ 7 団体に所属していました。その中の 3 つほどは代表という立場を務めさせていただき、様々

なものを得ることができたと考えています。

【趣味・特技】

●映画鑑賞

元から好きだったのですが、中学生の時に「今なら 1000 円払えば映画館で映画が見れる！」と知ったのがきっかけ。その頃から TV での放映等を含めて毎年 100 本ほどは見ています。

●お酒

小さいころはにおいがかぐだけで嫌な顔をしていたのに、今では大好き。夕飯と一緒におつまみを作り、映画を見ながら焼酎や白ワインを飲むのが至福のひと時です。

【志望動機】

中学生～高校生に、TV 等で地球温暖化が進んでいるといった旨の報道がなされているのを見たのが始まりです。人為起源で発生している可能性が高いにも関わらず、その解決への取り組みがあまり進んでいないという印象を受けました。そういった自分の行動に対する責任を取れていない状況に嫌気がさし、「だったら俺が解決しよう！」という中学生にありがちな安易で壮大な発想をしたのがきっかけです。その中で、政策という手段を用いた環境への取り組みに興味を抱き、環境省を志望しました。

その後、環境省のサマートライアルや COP18 へ日本ユースの一員として参加し、やはり環境問題の改善のために国家行政という立場から取り組みたいという自分の志を再確認し、環境省を志望することを決意しました。あのころの幼稚な自分の発想から始まり、結果としてその頃夢に抱いた職業につけていることに驚きを隠せないですね笑

【公務員試験について】

<教養試験>

勉強時間が 1 ヶ月ほどしかなかったため、ただひたすら俗に「スー過去」と呼ばれている参考書を繰り返し解き続けていました。勉強をする、というよりもセンター試験の時の記憶や処理能力を取り戻す、という作業に終始した印象です。

<専門試験>

近畿高校土木会さんが出している水理学と土質力学を 2 週間ただひたすら解き続けました。

<政策論文・政策課題討議>

昨年度分の問題を一度読んだだけで、一切対策は行いませんでした。

<人事院面接>

日程が発表されてから実際の面接まで 36 時間しかなく、民間企業を一切受けていなかった

ため、内々定をもらっている研究室の先輩方やサークルの同期にひたすら連絡を取り続け、文章校正や面接練習などをしていただきました。

<官庁訪問>

●全般の印象

志望動機+入省後に何がしたいのか+α、という面接が多かった印象です。

また、どの面接もがつつ自分を売り込んでしゃべり続けるのではなく、自分のことをちょっと知ってもらったうえで、相手の方の実際の業務や自分の足りない部分について学びに行く姿勢が大事なのではないか、と思います。

●印象に残ったやりとり

面接ではないのですが、待機場所に訪れた環境省の方とお話しをするのが非常に楽しく、印象に残っています。雑談も含め、学び取るべき点は学び取りつつもリフレッシュした状態で次の面接に臨むことができ、いろんな面でいい方向に働いたなあと感じています。

●失敗・苦労した点

自分の興味分野について知識をある程度詰め込んでも、「その中で環境省はどうすべきなのか」「そのために自分は何ができるのか」を実際の状況や業務内容と照らし合わせながら考え、話せないと意味がないことを痛感しました。

何度か自分の考えの浅さを指摘され、しっかりと思考を深めることと、その考えを相手の方にぶつけることでブラッシュアップを図るべきだという点を学びました。

【環境省を志望される方へのメッセージ】

<環境省のイメージ>

●イメージ通りだったところ

環境問題に前向きに取り組む姿勢です。

一緒にお酒を酌み交わす機会が何度かあったのですが、そういった時をはじめとしてその姿勢がヒシヒシと伝わってきて、嬉しかったことを覚えています。

●イメージとは違ったところ

やはり「人」だなあ、というところです。

世論やドラマでは悪いレッテルを貼られ、中で働いている人は人情の欠片もないような形で描かれることが多いかと思います。自分も最初はそういうイメージでした。

しかし、中で働いている職員の方々はやはり「人」であり、世間で抱かれているイメージとは異なる部分が多いのです。

<最後に一言！>

一緒に働きましょう！とまでは言いませんが、まずは選択肢の一つとして深く考えてみてください。気付くこと、学ぶことが多いと思いますよ。

裏☆内定者の声

去年の自然系内定者の声の企画(http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g3/from_pe/h24.pdf)を読んで、「面白いんじゃない？」という話になったのでやってみました。官庁訪問の時の話をベースに、色々話した skype の内容を載せるという企画ですが、あまりに不要な内容等は省略させて頂きました。勉強に飽きたら、読んでみてはどうでしょうか？
読む前に必要な予備知識は、『TNは無類のパンダ好き』という点のみですよ！

HT: こんばんは

HK: 関西 2 人組がまだ、ですかね？

JT: TN おくれるって。15 分雑談待機かな

DK: ちなみに皆さんは自宅ですか？

HK: 自分は自宅ですね～

SM: 自宅です。パンツ一丁です。スーパークールビズです

HK: パンツ w w w

SS: SM、パンツを脱いで出直して来なさい

JT: 逆に寒くない？仙台と違うのか？

SM: 一応 10 月からクールビズ期間なので（笑）むしろ暑いかな。仙台は？

JT: クールビズの乱用だよー。仙台は肌寒い感じだよ。秋らしく

SM: ちなみに水俣条約採択されたね

HT: さっきニュースで見ました。

DK: 今日の午前に知りました。歴史に学ぶことがこれからもできればいいのだけれど。

JT: 環境省の原点だね

SM: 達成感半端ないだろうね

AK: 遅れてすいません。難しい話についてはいけないかもですがご勘弁をw

SS: 水俣条約って障害とかあったのかな？

HK: 水俣は気候変動とかとは違ってあんまり障害らしい障害なかったみたいですよ～。官庁訪問の時に聞いたんですけど。まあ 3 か月前の軽い会話の中身でしたが。

SS: HK>うん、そんな漢字した

HK: あ、TN 入りました～

SS: TN、御疲れ！生でいい？

TN: 遅れてごめんなさい><

DK: 今日もパンダ見に行ったんですか？

SM: パンダさんお疲れ様です！！

HK: 今日はパンダ食べてたんですか？

TN: 食べへんわ！ぱんだを！

AK: いきなりカオス w w

SS: そうだよ！生じゃ食べれないよ

TN: まじめがない w w どんな話が今まであったの？

SS: パンツ一丁で水銀を規制してパンダになった話

HK: SS、雑 w w w

TN: 水銀のネットニュースで見た！

HK: まあ、こんな感じで会話はカオスになりますが、このまんまでお願いしますw

SS: T がドンビキしてないか心配です

HT: 私は平気です。

TN: なぜか画面の前で笑ってしまった笑
官庁訪問の話はクールビズ以外はまだ？

HK: クールビズも違うけどねwということで、1 つ目の質問！みなさん、官庁訪問対策としてどんなことをしてましたか？

TN: 白書読んでた。内定者の話を聞く機会があつて、その人が白書は読んでいけて。あと、自分の専門に近いことで環境に関係ありそうなことを調べてた

DK: ES を書く段階でちゃんと考える。白書は一次が終わったあとに買いました。

AK: 自己分析ぐらいかなー。第1クールは環境省がどんなことしてるか聞きに行こうと思ってたから

HK: ちなみに自分は、大学のキャリアセンターにあった「公務員試験でよく聞かれる質問30」みたいなもの見つけて全部聞かれたら答えられるように作り込んだかなあ〜

AK: すごい！まじめ

DK: すごいちゃんと準備してるねー

HK: どやあ

SM: 民間の就職活動で面接慣れ。説明会に行きまくって情報収集(20回くらい)。

HT: 凄いですね。そんなにあるんですか？

SM: これのおかげで顔を覚えてもらえた。後ホームページは2年間毎日見てた。まるでストーリーww

AK: まめすぎるw

HK: SM、2年間毎日に変態の領域ですw

TN: みんないつから国家公務員の試験対策はじめた？

JT: おれ、試験勉強は学部3年の秋くらい

DK: 試験勉強は願書を出してからかなー。

TN: 去年の12月から試験対策、今年の1月末から環境省対策かな

HT: M1の時に過去問パラパラは見ました。

HK: 真面目にはじめたのは今年の3月末。

SM: やっぱ皆短期集中なんだね

AK: 理系は自分の専門で受けるから楽やね

SM: そういえば公務員試験は範囲広いからあまり早く始めると最初にやったことを忘れる、って先輩にアドバイスされたな

HK: ちなみにみんな、自分の専攻そのままに受験したんですか？

JT: んだ

TN: もち。それ以外は無理だった><

DK: 少なくとも、地球科学の場合は専門の勉強がほぼ不要な気がします。ここには他に地球科学系の人がないはずなので僕1人の意見になってしまいますが。

TN: 物理もいらなと思う！院試みないなもんやった

AK: 自分の場合はだけど、院試で勉強してるから一から全部って感じではなかったな

DK: 確かに院試みたい、というのが近い。

SM: うんうん(・・・院試受けてないからわからない)

JT: おれは教科書の例題っばいって思った。

SS: そだね、まあみんな頭良いからね

JT: ほんと頭いいなー。いいなー

HK: んじゃあ、そろそろ試験&準備から話題を移しましょうかんじゃあ、そろそろ試験&準備から話題を移しましょうか

HK: 大事なことから2回書いちゃったw

SM: はい、先生！

HK: 春・夏それぞれいると思うんですけど、待合室の様子はどうでしたか？まずは春採用の方々からお願いします！

JT: 待機室。あんま人いなかった。二日目からは、おれ入れて二人だけ。

SM: 思ったより人が少なかった。しかもほとんど説明会で面識があった人だから、緊張はやわらいだかも。初日は8人くらい？

HK: へえ〜、意外！

SM: 今年は少ないって言われた

JT: 非常用の水があるところで待機してた

HK: 非常用の水！？倉庫ですか？笑

SM: え？普通に第一会議室だったけど

JT: 震災用。たぶん。なにかの機械の熱気であつかった。二日目かな

AK: てか二人は別日程？

SM: うん。ただ人が少なかったおかげで3時ごろには解散できた。民間就活もしたからすごい助かった

JT: それはほんとに！

SM: 最初に紙を渡されて、今日は何時に誰と面接するのが全て書いてあった

HK: 初日から予約制だからこそ、ですねw

SS: それは変更されたり、追加されたりすることはなかったの？

JT: 2人とも初日も二日目も追加された。

SS: 笑

JT: で、夏受けるときのアドバイス(説教)された。

TN: なんか裏話っばい！

DK: 春は、第何クールまでありました？期間短いですよ？

JT: 一週間くらいで終わるよ

SM: テンポはよかったけどその分民間の面接も行けちゃたから結構ハードだったかも。民間含めて3日間で16回面接したから。8日が実質最終だったかな

HT: 一日何人くらい面接しました？

SM: 1日4, 5人

JT: 6人,4人,3人,1人

AK: 自分も実は春官庁訪問してたけど、京都ー東京の往復は地獄だった

SM: ちなみに JT と最初にあったのは8日

JT: ちゃんとしてる人だ！って思ったわ

SM: おとなしい印象だったけど、水虫がひどい友人宅に泊まってる話されて吹いた

JT: あー、住空間としては犬小屋のちょっと上レベルのところに泊まってたからね。

TN: 住環境、大事だね。。

SM: ちなみに HK は馬場のカラ館でつぶれているところを見たのがはじめて

HK: ちょwそれはw一次合格の日でちょ

うしにのってたくさん飲んじゃったんです
ゴメンナサイ・・・

TN: ば・く・ろ！ば・く・ろ！

HK: じゃ、じゃあ、次、夏いきましようか！
夏の待合室の雰囲気どんな感じでしたか？

DK: 初日、理工系だけで30人ぐらいいた。
人が多くて賑やかでやりやすかったかな。

HK: もうね、パンダ。何がパンダかって、全部パンダ。

TN: 編集長、異議あり！

HT: 他の人と話したり、職員の方のお話を聞いたりしてました。

AK: 俺は3日目だったけど、それでも理工系で20人はいたかな

TN: にぎやかだったな～でも、いつ自分が切られるかびくびくしてた

JT: 暑くなかった？

DK: 暑かった！

TN: お茶がな～初日あんまりつめたくなかったんだよな～

JT: パンダは毛の関係とかあるしね

HT: クールビズが必要ですね。

TN: ぱんだゆーな。ちなみにパンダの地肌はピンク、しろくまの地肌は黒です

HK: w w w

JT: 白熊の毛は中空洞で透明です

DK: パンダ止まらんな(笑)

DK: 第3クールまでネクタイをしてたら、次は是非クールビズで、と言われた。

SM: クールビズで、ってよく言われるけど初日はどうしようか迷わなかった？

HK: 初日はネクタイつけていきました！2日目以降はむしろクールビズでしたけど

HT: 一応ジャケットも持っていきました。

DK: フル装備で。

SM: そんな装備で大丈夫か？

DK: 大丈夫だ、問題ない。

HK: 流石www

SM: のってくれたww

JT: 礎指令的な説得力がある

SM: 夏はやっぱり終電まで?

HT: 夕方まででした。

DK: 一番遅くて 18 時過ぎだったような。
あとは 16 時とか。

JT: 確かに環境省早い気がする。面接の中
身はどんな感じ?

DK: 中身は・・・最近読んだ本について面
白さを説明してと言われたのが。

HT: 研究のこととか聞かれたり、逆に相手
の職員の方の業務を聞いたりしました。

TN: どんな人間になりたい? って聞かれた

JT: おれイソブタンの構造式きかれた

HK: イソブタンw

JT: C が 4 つですかね、みたいな事言った

AK: 雑w

TN: プロパンの真ん中にメチル基プラス?

JT: いや、ただ端が折れ曲がってる

HK: ある方に「制服とチャイナドレスどっ
ちがいい? って質問されたよ～」って言わ
れたから、同じ質問されたら瞬時にチャイ
ナドレスって言う準備だけ常にしてた

AK: w

SS: チャイナドレスですね

DK: 制服!

SS: 端が折れたチャイナドレスもありだね

HK: 端が折れたチャイナドレスってなん
なんですかw

JT: スリットじゃ物足りないよ

SS: クールビズだよ、君たち

SM: はっ!!

SM: 他におもしろい質問なかった?

SS: リープフロッグどう思うって聞かれて、

未だに分からない

TN: 面接では意外とまじめな質問しかこ
なかつたな～

AK: ↑元真面目枠

HK: 元w

TN: よんだ? >AK

AK: すまん人違いだったわ

SM: 確かに志望理由とか自己 pr とかを繰
り返し何度も聞かれたイメージ

DK: やっぱり、1 年目の人たちと話してた
ときの雰囲気よかったかなー。

SM: うらやましい。春は 1 年目の先輩たち
は研修中だったから会ってないんだよね

HK: 職員さんもうちらも入り乱れて週末
トークしたときとかかなり楽しかったw

TN: え! そのトーク参加してない! 僕は
最後の方の地球局での雰囲気が好きだった

HK: あ、最後のほうの雰囲気は俺も大すき
だった! 話の中心はパンダだったけどw

AK: それなw

DK: インパクト強すぎて。

TN: マジレスすると、K と SS は初日で「あ
あ。この二人、確実やるな」って思った

SS: 僕はずっとドキドキしてたけどね

HK: まじかwただただ必死だったのは覺
えてるけど

TN: え! 意外! 2 人とも! ?

DK: 1 年目の人たちの雰囲気が良かったか
らな一、何となくの安心感が。

SS: 待合室はかなりアットホームで良かったよ
ね

TN: 来年、僕らあれやるのかww

HT: でも最初は緊張しました。

HK: おなじみの顔がそろそろと安心した!
すごい安心感があつた

TN: 僕も同意! 喋り相手がいるっていう

のはやっぱり安心するな～

SS: なんか戦友だよな。よし、一緒に生き残ったね、みたいな

TN: 戦友！かっこよ！

HK: みんなで朝早めに集まって、また会えましたねって言いながら栄養ドリンク飲んで、俺が一番最初に呼ばれる恒例のパターンが楽しかった。辛いよ名前順・・・笑

SS: 僕はだいたい K の次に呼ばれる笑

SM: お互いどういう印象持ってたの？

HK: 印象は、TN=パンダ

AK: 初日からパンダだったのか...

TN: くっ・・・！K、誉めてやろうと思っただのに・・・！

HK: てへっ

SS: HK =知ってた、HT=知ってた、TN=動物園で見た事ある、DK=大人、AK=強そう

TN: SS が敵にまわってる・・・

AK: 俺の中での TN は本当にただのパンダ

TN: ただのパンダいうな。飛べない豚は～のくだりがよぎったわ

HT: 最終日に初対面だったんですが、パンダの印象が強かったですね。

AK: 俺は 3 日目行った時、全員が環境の話してたから、来る場所間違えたと思ったw

SM: 意外と環境が一番興味ある、って人が少ないのが環境省の特徴かもね→多様性

JT: H さんがおれのこと推してくれて、何ですかってきいたら、ダイバーシティって言われた。

SS: SM がイギリス紳士だって聞いてびっくりした。てか三か国ってすごい！

HT: 何語が話せるんですか。

SM: あれは面接用にちょっと盛ったww一応英語とフランス語

SS: ボンジュール♪

TN: ボンソワールやろー

JT: 面接で TOEIC770 点って低くないって言われたの SM のせいだと思ってる

SS: 笑 別に低くはないよね

HK: 俺より 100 点以上高いですよ・・・

AK: 笑 HK は TOEIC なんか言われた？

HK: 低いね、って色んな人に言われた

AK: チャライわくだねw

HK: この前の懇親会の帰り際に君のいいところは、口八丁手八丁なところですよ！って言われたときはなんて返せばいいのか分からなかった・・・

SM: w

JT: あざーす。かな

AK: ワロタ

HK: それ、褒めてますか？あざーす、が俺の回答でしたw

JT: 正解

AK: あざーすwww

TN: うまいwwS さんはチャライのは素晴らしい、とのたまっていたらしゃった

JT: 金言だー

HK: だから、俺はチャラさをキープしたまま優秀な人物に成長します！きらーん

TN: こころへんはぜひ使ってね、編集長！

SM: あ、話変わるけど、個人的に聞きたいのが出口面接でなんていわれたか

SS: 出口ってあった？

HK: 俺は毎回ありました

HT: あったりなかったりだったような。

SM: どんなセリフが評価されてると捉えられるか。結構受験生の悩みの種だと思う

SS: でも感想を聞かれたぐらいで、コメントはあんまなかったな

AK: 直接評価してるみたいなことは言われなかったかなー

SS: O さんに会った時は良い感じだよ、OK
～♪って言われたけど

HK: ローラ w w w

JT: ほんと色んな人採用されてるから、なにが正解とかないような気がする。多様性

TN: 結局、官庁訪問の間はよく採用を決める決定打みたいなのはわからなかったな～

HT: 官庁訪問中の成長も重要と聞きました。

TN: そうなんだ！

SS: HT、成長した？

HT: 10月の最終面接が一番良かったって言われました。

SS: それ、成長してるね！僕は意識はしたけど、変わらなかった気がする

JT: 俺多分それだけが評価された気がする。

AK: 僕は退化しました

TN: 成長は自信あるかも。面接の質問のたびにいろいろ聞いて、ほかの人の面接のときにあたかも初めから知ってましたよ、的な感じでそのネタ話してた w w

TN: 話変わるけど、官庁訪問ってストレスたまると思うけど、その発散方法って何？

HK: パンダ

TN: ご自分のでw

SM: 早く寝る

TN: あんまり寝れなかったな。そういえば

AK: ↑寝坊したもんねw

TN: 墓穴ありすぎていや・・・

HK: だからパンダだって！一緒に受ける人たちと、ピリピリするんじゃなくて雑談して笑いあうのが一番発散できてた気がする。だからこそパンダ

TN: そーゆーこと w w 僕も話すのすごい楽しかった

AK: 確かに待合室はホッとできたなー

HT: 私も人と話すのが一番でした。

JT: 水虫の友達と話す

HK: 水虫限定w

TN: あと、甘いもの。お菓子必須。

HK: なんか、本当はライバルのはずなのに同志みたいな感じで一丸となって取り組んでるような錯覚さえあったよ

TN: 確かに、ライバルなはずなのにね。やっぱりいわゆるこみゅ力高い人ばかりだね、内定者

SS: 待合室の時間を楽しめるかっていうのは大きいかもね

JT: 春は期間短いし、戦友感は薄めだよ

SM: うん、初めて会ったと思ったら戦争終わった

TN: 戦友感w初めて聞いた いい言葉

JT: だから水虫の友達に頼るわけです。

TN: なるほど。やっぱりみんな話すのが好きなんだ

SM: まあこれから 40 年は戦友だけだね

JT: かつこいい！

SS: 編集長ここ使いましょう！

TN: 名言きた！

HK: イケメンすぎるからカットかな

SS: 鬼 w w

TN: ひどw

SS: いや～でも何度も読んだ内定者の声を作れるなんて、胸熱だね

HT: 編集大変そう。

TN: 今回の裏内定者の声、さかのぼってみるとカオスな部分が八割で心配w

HK: 頑張ります笑。ではでは皆様、そろそろ終わります！ありがとうございました！

以上です！読んでいただき、ありがとうございました～！

編集後記

最後まで読んでいただきどうもありがとうございます。

地味なつくりですが、面白さは負けていないつもりです。

環境省は規制庁も含めて職員数が 2000 名程度の小さな省庁ではありますが、各メンバーが非常に個性豊かであることと仲が濃密であることが特徴だと思われます。

就職難が叫ばれる時代でどのように生きるか悩む時代だと思われませんが、皆様方が進路を決定する、国家公務員・環境省を知る上で、この冊子が少しでもみなさまのお役に立ちてれば幸いです。

最後になりましたが、この冊子を制作するうえでご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

平成 25 年 10 月 編集担当者